

### 3. 「ヒートアイランド監視報告 2015」のまとめ

#### 各都市における長期変化傾向（統計開始から 2015 年までの統計による調査結果）

##### 【都市の高温化】

各都市では、都市化による気温の長期的な上昇傾向がみられ、特に日最低気温が大きい。

気温の長期的な上昇は、夏に最小となる都市が多い。

都市化率が大きい地点ほど気温の上昇率が大きい。

各都市では、冬日は減少し、熱帯夜や猛暑日、真夏日は増加している。

##### 【都市の乾燥化】

各都市では、都市化による相対湿度の長期的な低下傾向がみられる。

相対湿度の低下率は、秋や冬に最大となる都市、梅雨時期に最小となる都市が多い。

都市化率が大きい地点ほど相対湿度の低下率が大きい。

各都市では、霧日数は減少している。

##### 【都市での降水量】

各都市では、大雨や短時間強雨の有意な長期変化傾向はみられない。

#### 都市気候モデルによる解析結果

##### 【2015 年 8 月】

関東地方では、東京都心部から埼玉県東部で都市化の影響が明瞭に現れていた。

近畿地方では、大阪平野東部で都市化の影響が明瞭に現れていた。

東海地方では、愛知県西部で都市化の影響が明瞭に現れていた。

2015 年 8 月は、各地方とも最近 7 年間の中では都市化の影響が比較的小さかった。

猛暑日の続いた 2015 年 8 月上旬は、各地方とも都市化の影響が明瞭に現れていた。

都市化の影響は日中より夜間の方が大きかった。

##### 【夏と冬の比較】

都市化の影響は夏より冬の方が大きい。

## — 参考文献 —

環境省, 2004: ヒートアイランド現象による環境影響に関する調査検討業務報告書

<http://www.env.go.jp/air/report/h16-04/index.html>

環境省, 2013: ヒートアイランド対策ガイドライン平成 24 年度版

[http://www.env.go.jp/air/life/heat\\_island/guideline/h24.html](http://www.env.go.jp/air/life/heat_island/guideline/h24.html)

気象庁, 2006: ヒートアイランド監視報告 (平成 17 年夏季・関東地方)

気象庁, 2007: ヒートアイランド監視報告 (平成 18 年夏季 - 関東・近畿地方)

気象庁, 2012: ヒートアイランド監視報告 (平成 23 年)

<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/himr/index.html>

気象庁, 2016: 気候変動監視レポート 2015

<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/monitor/index.html>

藤部文昭, 1993: 関東平野における春・夏季晴天日の気温分布の日変化. 天気, **40**, 759-767.

藤部文昭, 2012a: 都市の気候変動と異常気象 猛暑と大雨をめぐる。朝倉書店, 176pp.

藤部文昭, 2012b: 観測データから見た日本の都市気候. 気象研究ノート, **224**, 1-23.

森博明, 小川弘, 北田敏廣, 1994: 濃尾平野における海陸風の特徴と広域海風の出現条件. 天気, **41**, 379-385.

Mizuma, M., 1995: General aspects of land and sea breezes in Osaka Bay and surrounding area. *J.Meteor.Soc. Japan*, **73**, 1029-1040.